

報道機関各位

子育て支援の充実に向けたアンケート調査結果について

子育て支援の充実を図るために、子ども未来課・福祉課・学校教育課・企画振興課と協働で子どもとその保護者が抱える困りごとの傾向を把握するためのアンケート調査を実施し、その結果をまとめました。

◆アンケート実施状況

(1) 実施期間 令和4年1月25日から2月10日まで

(2) 対象者 ①児童・生徒向けアンケート：小学校4年生から中学校3年生まで

②保護者向けアンケート：小学校1年生から中学校3年生までの子どもをもつ保護者
(1家庭1名の回答)

(3) 回答件数(回答率) 小学生 601件(81.8%) 中学生 394件(55.2%)

(4) アンケート結果

添付資料を参照ください。

◆結果から

困りごとを抱えている子どもは、相談したいと思っけていてもなかなか相談できない現状がうかがえます。支援する大人が子どもに声をかけ、困りごとをキャッチしていく体制づくりが求められているため、相談窓口の周知を進めるとともに、子どもに対して支援者側から声をかけ、相談につなげるという相談を受ける側のスキルアップが必要となっています。

行政・学校・地域が連携し、子どもと保護者の困りごとをキャッチして、必要な支援につなげる体制づくりを推進していきます。

添付資料 有 無

箕輪町子育て少子化対策
キャッチコピー

みんなで育てる みのわっ子
～パパになるなら箕輪町
ママになるのも箕輪町～

子ども未来課 子育て支援係
(課長) 田中 克彦 (担当) 鈴木 道代
電話：0265-79-0007 (内線) 1471
FAX：0265-79-0230
E-mail：kodomo@town.minowa.lg.jp

- ・こども相談室
- ・教育総務係
- ・社会福祉係
- ・まちづくり政策係

小学生・中学生対象「生活での困りごとアンケート」結果まとめ

アンケート方法

【対象者】

小4～中3の小学生・中学生

【アンケート期間】

R4.1.25～2.10

【実施方法】

- ・ながの電子申請サービス
- ・無記名式
- ・HRや授業内でPCによる回答

【回答件数】

小学生601件 中学生394件 **合計995件**

対象者

小学生735件 中学生714件 **合計1,449件**

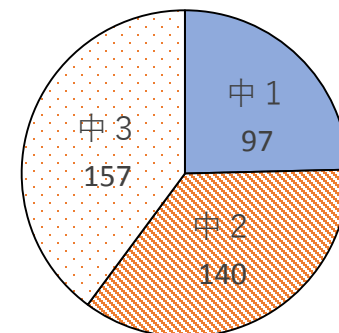
回答率

小学生81.8% 中学生55.2% **全体68.7%**

設問1 学年を教えてください

区分	件数
小学生 合計	601

区分	件数	
中学生	中1	97
	中2	140
	中3	157
合計	394	

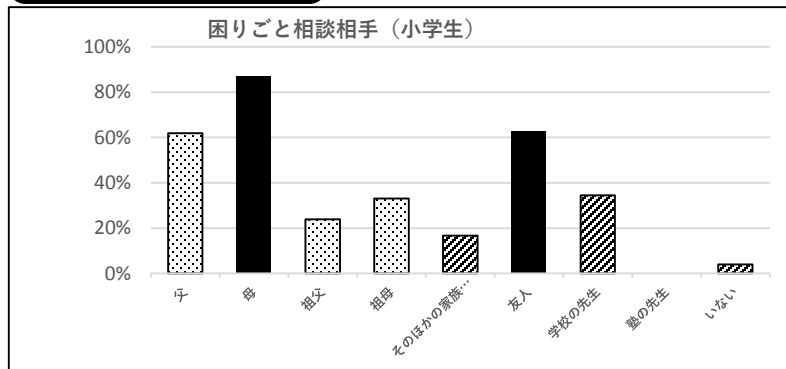


設問2 困っていることを相談できる人は誰ですか？ ※複数選択

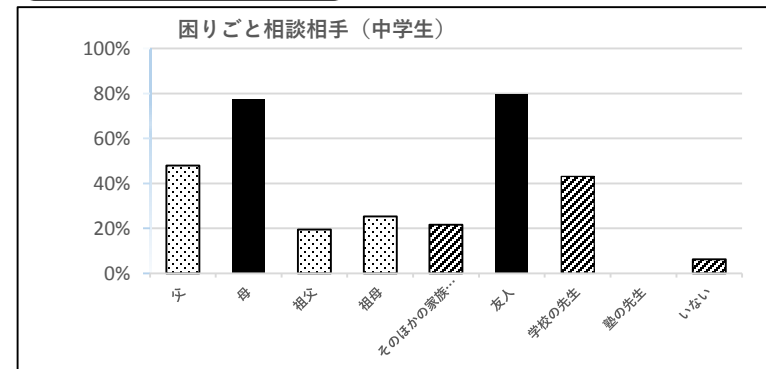
順位	小学生		中学生	
	相談相手	割合	相談相手	割合
1位	母	87.0%	友人	79.4%
2位	友人	62.7%	母	77.7%
3位	父	61.9%	父	48.0%
4位	学校の先生	34.4%	学校の先生	43.1%
5位	祖母	33.1%	祖母	25.4%
特記項目	「いない」と回答	4.0% (24人)	「いない」と回答	6.3% (25人)

- 主な相談先は“母”、“父”、“友人”である。
- “母”への相談が多く、“父”への相談と比較し20%以上離れている。
- 中学生になると“父”への相談割合が減り、“友人”への相談が増える傾向がある。
- “学校の先生”への相談が3~4割であった。

小学生



中学生



設問3 今、困っていることはありますか？ ※複数選択

※「その他」を除く

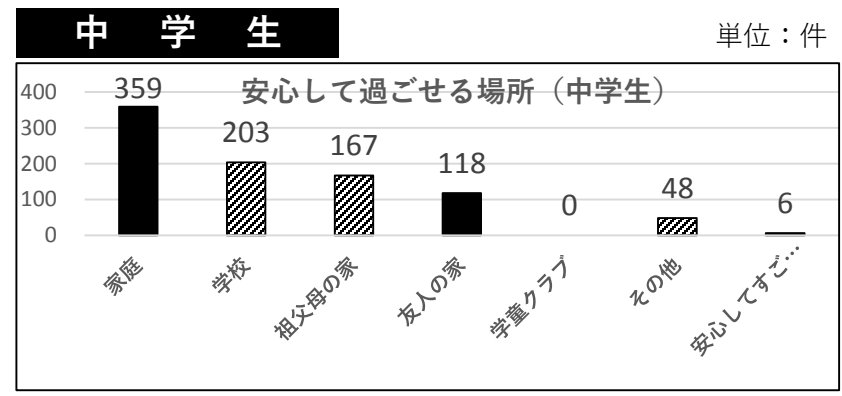
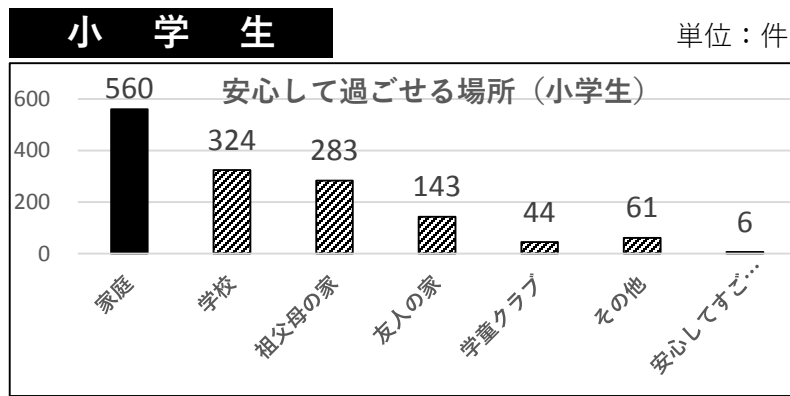
順位	小学生		中学生	
	項目	割合	項目	割合
1位	授業についていけない	7.0%	授業についていけない	11.9%
2位	友達とうまくいっていない	4.0%	学校へいきづらい、行っていない	3.0%
3位	学校へいきづらい、行っていない	3.3%	家族の仲が良くない	2.5%
4位	兄弟・姉妹の世話をしなくてはいけない	2.5%	家へ帰りたくない	2.3%
5位	家族の仲が良くない	2.2%	いつもおなかが空いている	2.3%
特記項目	いつもおなかが空いている	1.8% (11人)	学校へいきづらい、行っていない	3.0% (12人)
	家へ帰りたくない	1.2% (7人)	兄弟・姉妹の世話をしなくてはいけない	1.0% (4人)
	家族と話す時間がない	1.8% (11人)	家族と話す時間がない	1.0% (4人)
	家の手伝いなどで勉強や遊びの時間がない	1.8% (11人)	家の手伝いなどで勉強や遊びの時間がない	1.0% (4人)
	困っていない	78.4%	困っていない	70.6%

- 「授業についていけない」「学校へ行きづらい、行っていない」「家族の仲が良くない」については、小学生・中学生ともに共通して困りごとを感じている。
- 小学生は「友達とうまくいっていない」ことを困りごととして感じている。
- 「いつもおなかがすいている」「家へ帰りたくない」「家族の仲が良くない」と感じている小学生・中学生がいる。
- 「兄弟・姉妹の世話をしなくてはいけない」、「家の手伝いなどで、勉強や遊びの時間がない」で困っているということはヤングケアラーの可能性ある。
 それぞれ、「兄弟・姉妹の世話をしなくてはいけない」小学生15人、中学生4人
 「家の手伝いなどで、勉強や遊びの時間がない」小学生11人、中学生4人いる。
- 「家族と話す時間がない」ことを困りごとと感じている小学生が11人いる。

設問4 あなたが安心してすごせる場所はどこですか？ ※複数選択

順位	小学生		中学生	
	項目	割合	項目	割合
1位	家庭	93%	家庭	91%
2位	学校	54%	学校	52%
3位	祖父母の家	47%	祖父母の家	42%
4位	友人の家	24%	友人の家	30%
5位	その他	10%	その他	12%
6位	学童クラブ	7%		
	安心して過ごせる場所はない	1% (6人)	安心して過ごせる場所はない	2% (6人)

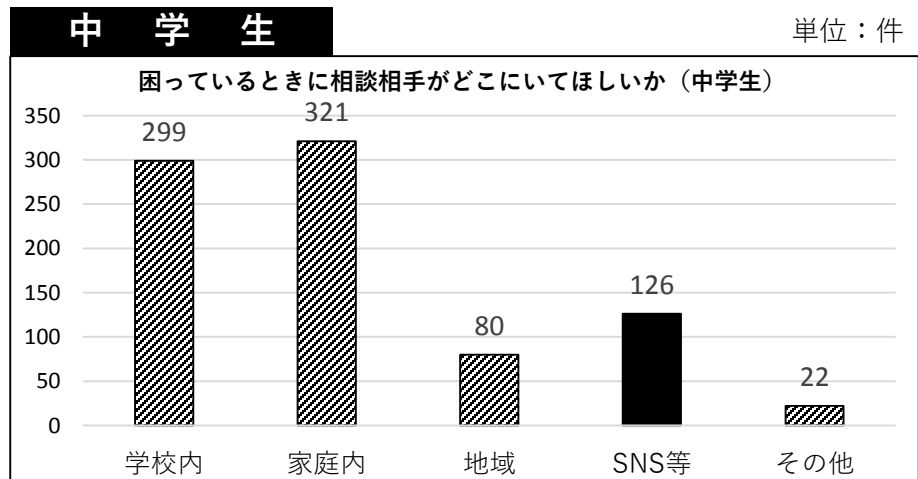
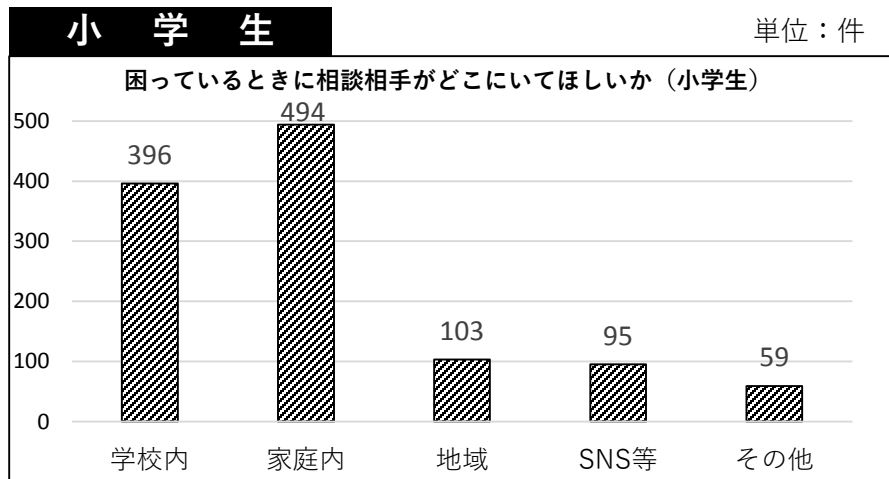
- 小・中学生ともに家庭・学校が上位を占めている。
- 『家庭』が「安心して過ごせる場所」ではない小学生は7%（41人）、中学生は9%（35人）いる。
- 小学生6人、中学生6人が「安心して過ごせる場所はない」と回答している。



設問5 困っているときに相談する人がどこにいてほしいですか？ ※複数選択

順位	小学生				中学生			
	項目		割合		項目		割合	
1位	家庭内		82%		家庭内		91%	
2位	学校内		66%		学校内		52%	
3位	地域	地区公民館	5%	17%	SNS等	電話	12%	32%
		塾内	6%			SNS LINE・ツイッターなど	20%	
		役場	6%					
4位	SNS等	電話	12%	16%	地域	地区公民館	5%	20%
		SNS LINE・ツイッターなど	4%			塾内	9%	
						役場	6%	
5位	その他		10%		その他		6%	

- 相談場所の希望は小・中学生ともに家庭が多く、次いで学校内となっている。
- 中学生はSNSによる相談窓口の希望が高くなる。



“安心して過ごせる場所がない人”は何に困っているか

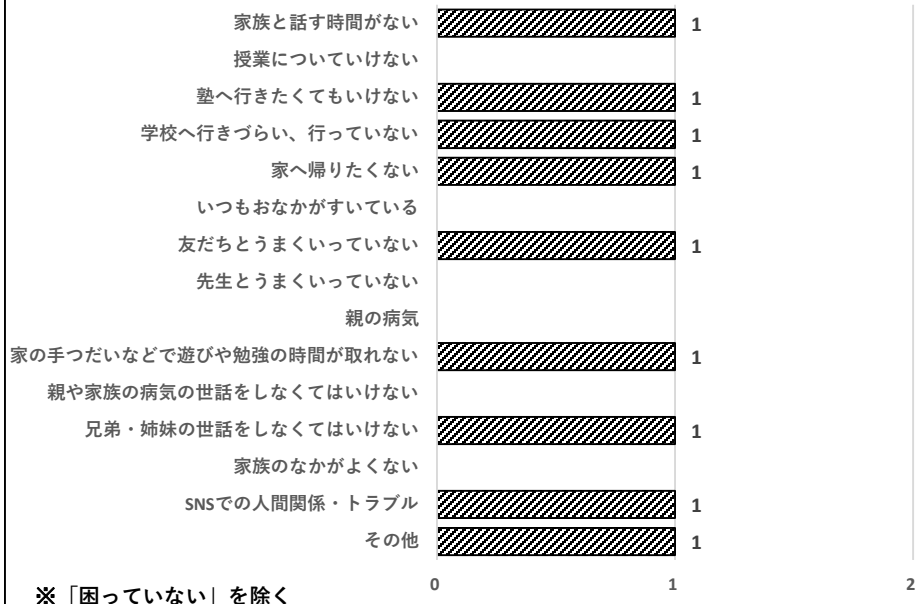
小学生のうち6人(回答者の1.0%)、中学生のうち6人(回答者の1.5%)は
“安心して過ごせる場所がない”

小学生

小学生は困りごとの幅が広い

単位：件

今困っていること（小学生）※複数選択

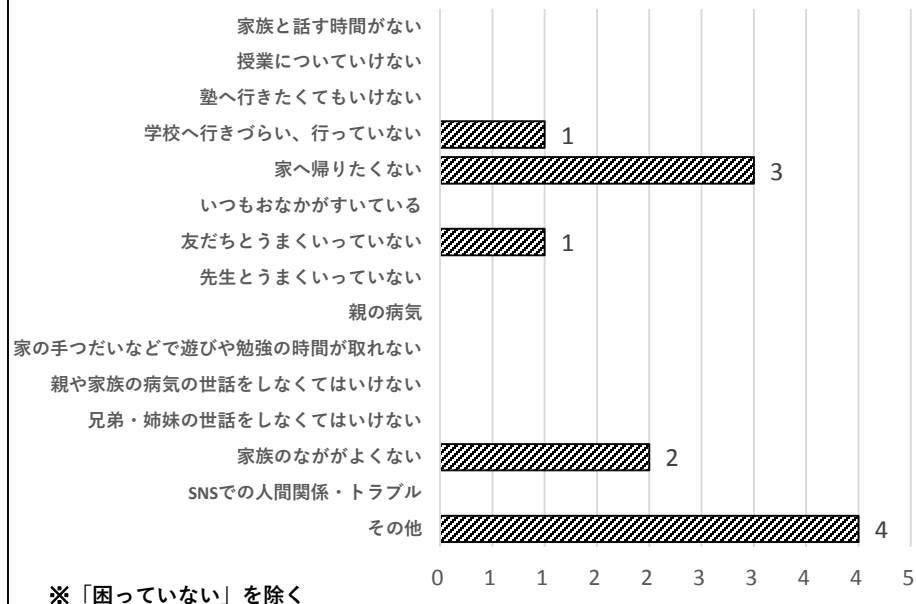


中学生

中学生は内容が把握できない“その他”が4件

単位：件

今困っていること（中学生）※複数選択



“相談できる人がいない人”は何に困っているか

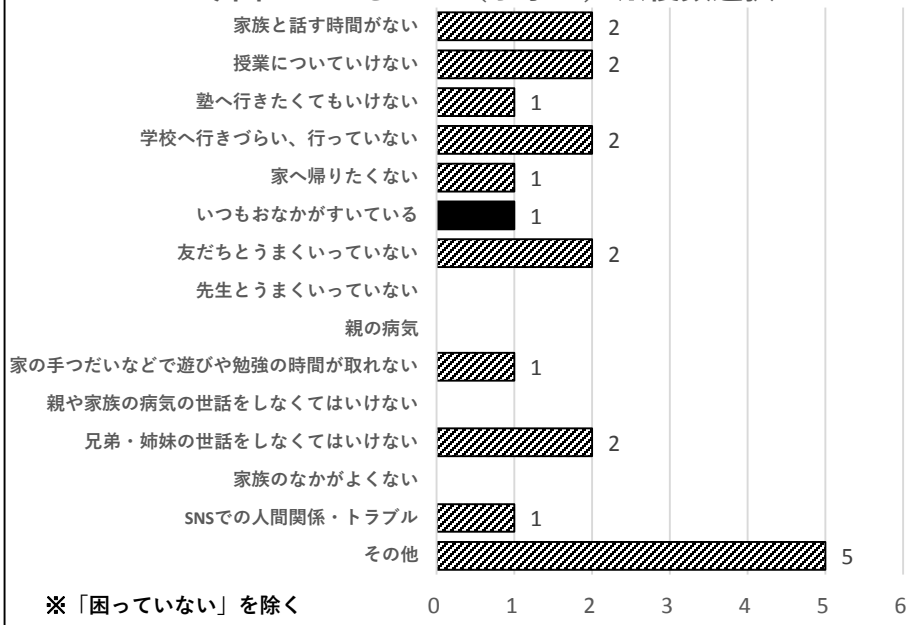
小学生のうち24人(回答者の4.0%)、中学生のうち25人(回答者の6.3%)は
“相談できる人がいない人”

小学生

小学生は困りごとの幅が広い
“その他” 5件

単位：件

今困っていること（小学生）※複数選択

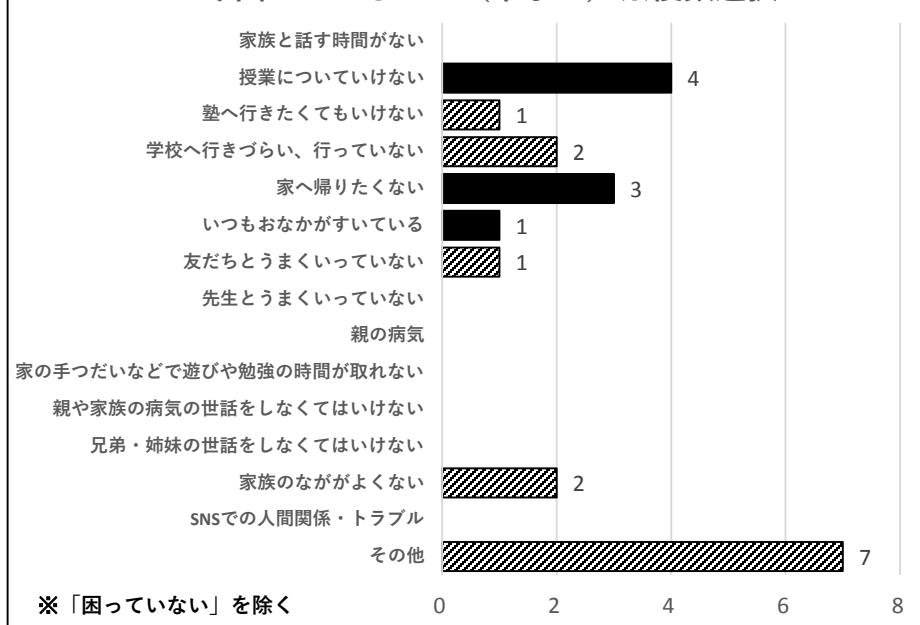


中学生

中学生は“授業についていけない” 4件
“その他” 7件

単位：件

今困っていること（中学生）※複数選択



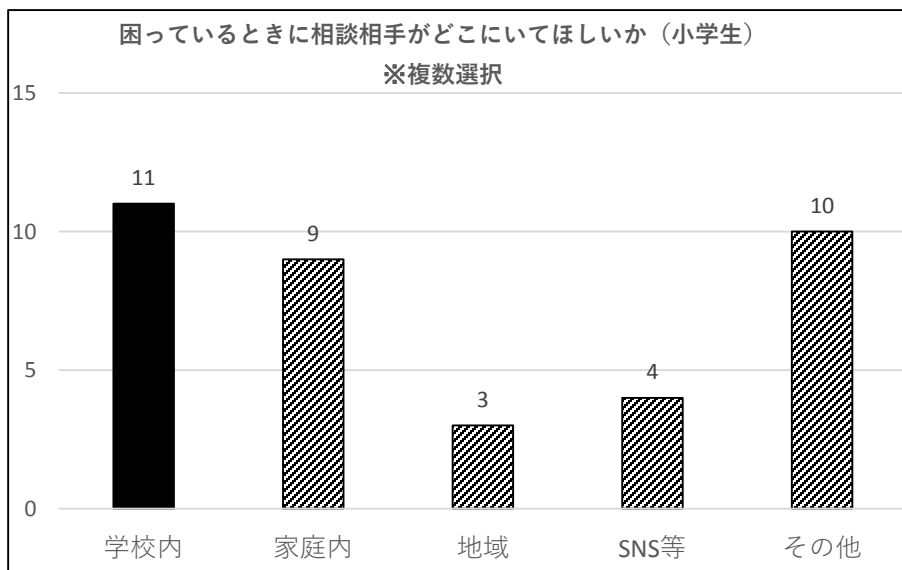
“相談できる人がいない人”はどこに相談相手がいてほしいか

小学生のうち24人(回答者の4.0%)、中学生のうち25人(回答者の6.3%)は
“相談できる人がいない人”

小学生

単位：件

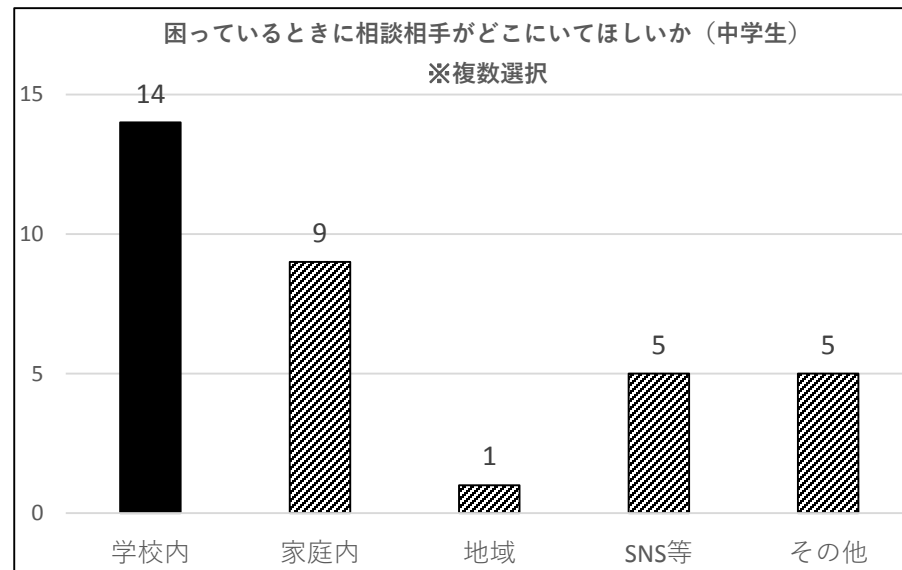
小学生は“学校内”に相談相手がほしい



中学生

単位：件

中学生も“学校内”に相談相手がほしい



このうち

“安心して過ごせる場所がなく”、“相談できる人がいない”人は、小学生で3人、中学生で3人いる。

保護者対象「子育て支援の充実に向けたアンケート」結果まとめ

- ・こども相談室
- ・教育総務係
- ・社会福祉係
- ・まちづくり政策係

子どもの将来が、生まれた環境によって左右されることなく心豊かな生活と充実した学びを保障することを目指している。子どもと保護者の皆様の困りごとの状況を把握し、今後の町の施策の参考とするためにアンケートを実施した。

アンケート方法

【対象者】

小1～中3のお子さんがある保護者

【アンケート期間】

R4.1.25～2.10

【実施方法】

- ・ながの電子申請サービス
- ・みのわメイトによる配信
- ・無記名式

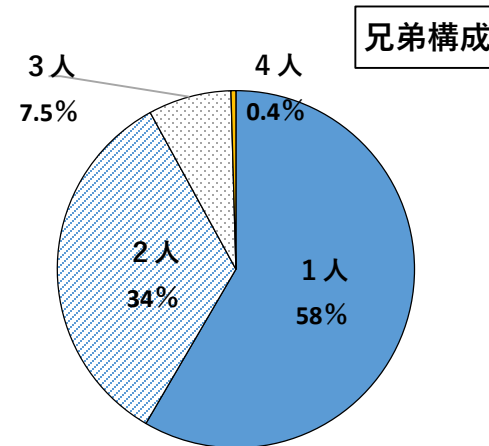
【回答件数】

452件 ※配信1,053件 回答率43%

設問1 お子さんの学年を教えてください

学年	人数
小1	80
小2	82
小3	62
小4	73
小5	91
小6	87
中1	76
中2	69
中3	55
合計	675

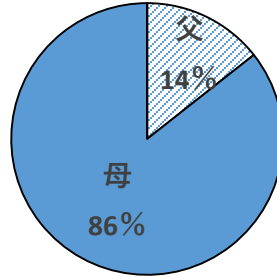
対象年齢兄弟	件数	%
1人	264	58%
2人	152	34%
3人	34	7.5%
4人	2	0.4%
合計	452	



設問2 このアンケートを答えている保護者はどなたですか

回答者	人数	%
父	65	14%
母	387	86%
祖父	0	0%
祖母	0	0%
その他	0	0%
合計	452	

アンケートを答えている保護者

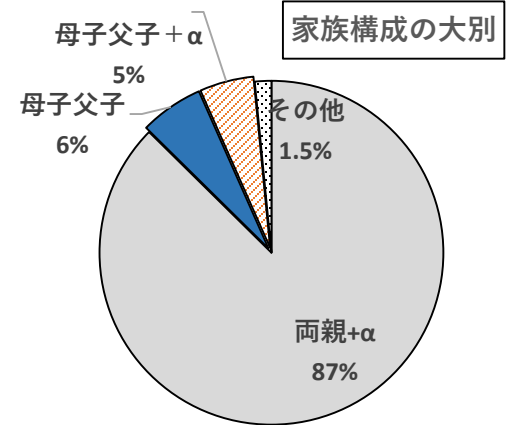


◎アンケート回答者は“母”が86%

設問3 家族構成を教えてください

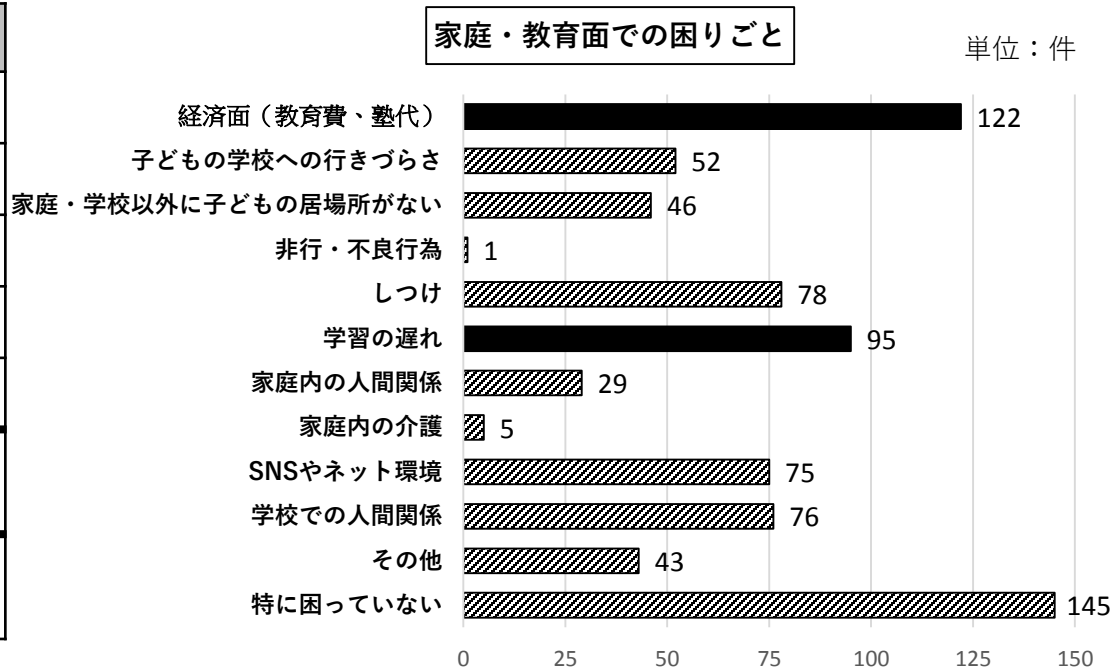
構成別人数	件数	%
子/父/母	295	65.3%
子/父/母/祖父	8	1.8%
子/父/母/祖母	26	5.8%
子/父/母/その他	7	1.5%
子/父/母/祖父/祖母	45	10.0%
子/父/母/祖父/その他	1	0.2%
子/父/母/祖母/その他	1	0.2%
子/父/母/祖父/祖母/その他	12	2.7%
子/父	4	0.9%
子/父/祖母	2	0.4%
子/父/祖父/祖母	1	0.2%
子/母	23	5.1%
子/母/祖父	2	0.4%
子/母/祖母	4	0.9%
子/母/その他	1	0.2%
子/母/祖母/その他	1	0.2%
子/母/祖父/祖母	9	2.0%
子/母/祖父/その他	1	0.2%
子/母/祖父/祖母/その他	2	0.4%
子	5	1.1%
子/その他	1	0.2%
その他	1	0.2%
合計	452	

構成別人数	件数	%
両親+α	395	87.4%
母子父子	27	6%
母子父子+α	23	5.1%
その他	7	1.5%
合計	452	



設問4 現在、ご家庭・教育面でお困りごとはありますか？ ※複数選択

順位	項目	割合
1位	経済面（教育費、塾代）	27.0%
2位	学習の遅れ	21.0%
3位	しつけ	17.3%
4位	学校での人間関係	16.8%
5位	SNSやネット環境	16.6%
特記事項	家庭内の人間関係	6.4% (29件)
	特に困っていない	32%



■ 「経済面（教育費・塾代）」で困っている家庭は27.0%だった。

■ 「家庭内の人間関係」で困ってる家庭は6.4%(29件)であった。

困りごとの重なり具合について

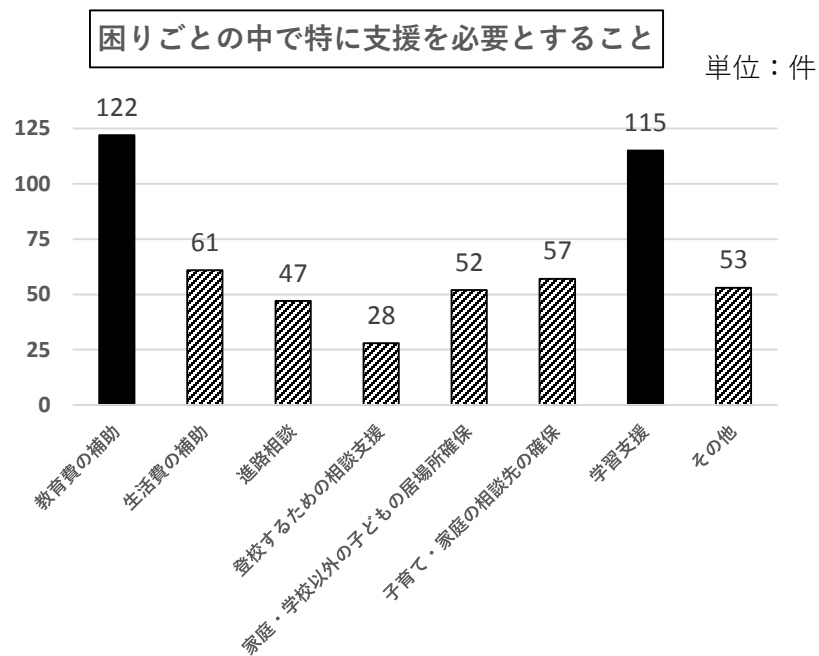
単位：件

項目	経済面（教育費、塾代）	子どもの学校への行きづらさ	家庭・学校以外に子どもの居場所がない	非行・不良行為	しつけ	学習の遅れ	家庭内の人間関係	家庭内の介護	SNSやネット環境	学校での人間関係	その他	特に困っていない
経済面（教育費、塾代）	17	14	14	0	23	32	10	5	26	29	5	2
子どもの学校への行きづらさ	17	14	14	0	8	21	8	0	12	21	1	0
家庭・学校以外に子どもの居場所がない	14	14	14	0	12	8	6	1	17	11	3	1
非行・不良行為	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
しつけ	23	8	12	0	32	14	4	19	19	7	1	
学習の遅れ	32	21	8	0	32	14	1	20	28	5	1	
家庭内の人間関係	10	8	6	0	14	14	0	8	8	1	0	
家庭内の介護	5	0	1	0	4	1	0	0	2	1	0	
SNSやネット環境	26	12	17	0	19	20	8	0	19	5	0	
学校での人間関係	29	21	11	0	19	28	8	2	19	6	0	
その他	5	1	3	0	10	5	1	1	5	6	0	
特に困っていない	2	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	

■困りごとの重なり具合を見ると、多面的な困りごとを抱えている。

設問5 お困りごとの中で特に支援を必要とすることは何ですか？ ※複数選択

順位	項目	割合
1位	教育費の補助	27.0%
2位	学習支援	25.4%
3位	生活費の補助	13.5%
4位	子育て・家庭の相談先の確保	12.6%
5位	家庭・学校以外の子どもの居場所の確保	11.5%

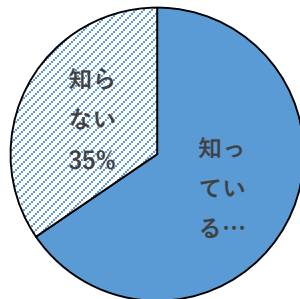


■「教育費の補助」「学習支援」が回答者の約25%を占めており、4家庭に1家庭はこれらの支援を必要としている。

■教育費の補助、学習支援に次いで、生活費の補助、子育て・家庭の相談先の確保、学校・学校以外の子どもの居場所の確保の順に支援の希望が多い。

設問6 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか？

項目	件数	%
知っている	296	65%
知らない	156	35%
合計	452	



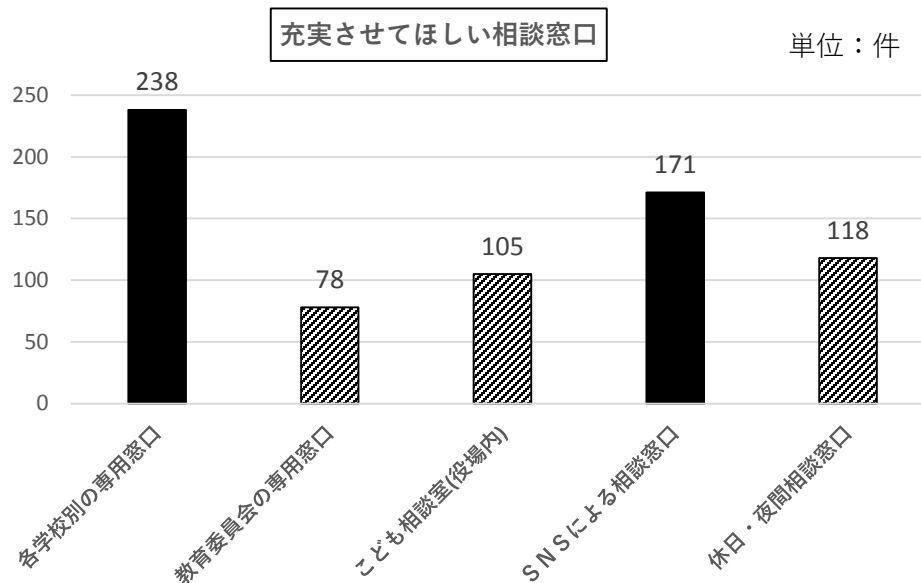
設問7 「ヤングケアラー」の子どもはご家庭にいますか？

項目	件数	%
いる	3	1%
いない	449	99%
合計	452	

- 「ヤングケアラー」という言葉を知っていると回答した人が65%と「ヤングケアラー」が認識されつつある。
- 「家庭にヤングケアラーがいる」と回答した人が3人いた。

設問 8 充実させてほしい相談窓口はどこですか？ ※複数選択

順位	項目	割合
1位	各学校別の専用窓口	52.7%
2位	SNSによる相談窓口	37.8%
3位	休日・夜間相談窓口	26.1%
4位	こども相談室(役場内)	23.2%
5位	教育委員会の専用の窓口	17.3%



- 回答者のうち約半数が各学校の専用窓口の充実を希望している。
- 学校専用窓口に次いでSNSによる相談窓口、休日・夜間相談窓口、こども相談室、教育委員会専用窓口となっている。

単位：件

項目	設問4 現在、ご家庭・教育面で困りごとはありますか？											
	経済面（教育費、塾代）	子どもの学校への行きづらさ	家庭・学校以外に子どもの居場所がない	非行・不良行為	しつけ	学習の遅れ	家庭内の人間関係	家庭内の介護	SNSやネット環境	学校での人間関係	その他	特に困っていない
設問8 充実させてほしい相談窓口はどこですか？												
各学校別の専用窓口	63	33	26	0	49	57	13	1	42	51	21	69
教育委員会の専用窓口	22	15	11	0	19	20	5	2	17	18	11	17
こども相談室(役場内)	35	14	13	1	29	28	7	3	18	21	8	28
SNSによる相談窓口	54	26	23	0	32	40	18	2	36	32	15	45
休日・夜間相談窓口	41	8	14	0	21	23	11	3	16	20	0	37

- 経済面での困りごとを感じている家庭においては、学校、SNS、休日・夜間、こども相談室と多数回答があり、相談窓口の多様性を求めている。
- 学習の遅れに困っている家庭においては、学校の専用窓口、SNS相談窓口の希望が多い。
- 学校に専用相談窓口を希望する家庭の困りごとは、教育費・塾代などの経済面、しつけ、学習の遅れ、SNSやネット環境、学校での人間関係などがあげられ、学校への相談のニーズが高い。

子育て支援の充実に向けたアンケートの実施について

- 結果と今後の取組み -

1 アンケート実施の目的

子どもの将来が生まれた環境によって左右されることなく、心豊かな生活と学びを保障することを目的とし、町が取り組む子育て支援施策の充実のため、子どもとその保護者が抱えている困りごとの傾向を把握することを目的として子どもと保護者に対してアンケートを実施した。

2 小学生・中学生向けアンケート

(1) アンケート方法

- ① 対象者 小学校4年生から中学校3年生
- ② アンケート実施期間 令和4年1月25日から2月10日
- ③ 実施方法
 - ・無記名式
 - ・HRや授業内でPCによる回答
 - ・ながの電子申請サービス

区分	件数
小学生 合計	601
中学生	
中1	97
中2	140
中3	157
合計	394

(2) 回答件数

小学生 601件 中学生 394件 **合計 995件**

対象者 小学生 735件 中学生 714件 **合計 1,449件**

回答率 小学生 81.8% 中学生 55.2% **全体 68.7%**

(3) アンケート設問について 設問5つ

- 設問1 学年を教えてください
- 設問2 困っていることを相談できる人は誰ですか? ※複数選択
- 設問3 今、困っていることはありますか? ※複数選択
- 設問4 あなたが安心して過ごせる場所はどこですか? ※複数選択
- 設問5 困っているときに相談する人がどこにいてほしいですか? ※複数選択

(4) アンケート結果について →結果は別添『アンケート結果』参照

(5) 課題と取組みの方向性

《設問2 関係》

- 困りごとの相談相手として小・中学生ともに保護者を選択しているが、中学生になると、父への相談割合が減少し、友人への相談が増える傾向がある。友人同士で相談した後のさらなる相談窓口の周知が必要となる。
- 相談相手として「母」が多く、子どもからの相談の受け方や相談後の保護者の悩みを受け止める機関が必要となる。

《設問3 関係》

- 小・中学生ともに「授業についていけない」ことで困っており、これらの子どもの悩みについて、受け止める体制が必要である。
- ヤングケアラーの可能性のある小学生や貧困が疑われる「いつもおなかがすいている」と回答した小・中学生があり、大人の側から子どもの様子を気にかかけ、声をかける姿勢が必要となっている。これらの子どもがSOSを発信できるような取り組みと関係づくりが重要である。また関係機関における見守りと声掛けの周知徹底が必要である。

《設問4 関係》

- 「安心して過ごせる場所はない」の回答が1.0～1.5%あり、回答率からの推定で「安心して過ごせる場所」を持たない子どもが20人程度存在する可能性がある。この課題は潜在化しているため、日頃の子どもの様子をよく観察し、大人が子どものサインをキャッチする必要がある。

《設問5 関係》

- 学校に相談できていない小・中学生がいる反面、困りごとの相談相手として、「学校」を求めている小学生・中学生が多い。相談してみたいと思う人間関係づくりと相談されたときのスキルアップが求められる。

3 保護者向けアンケート

(1) アンケート方法

- (1) 対象者 小学校1年生から中学校3年生の子どもを持つ保護者
- (2) アンケート実施期間 令和4年1月25日から2月10日
- (3) 実施方法 みのわメイトにて学校から保護者あてに配信し、ながの電子申請にて無記名にて回答

(2) 回答件数 452件 ※配信1,053件 回答率42.9%

(3) アンケート設問について 設問5つ

- 設問1 お子さんの学年を教えてください
- 設問2 このアンケートを答えている保護者はどなたですか
- 設問3 家族構成を教えてください
- 設問4 現在、ご家庭・教育面でお困りごとはありますか? ※複数選択
- 設問5 お困りごとの中で特に支援を必要とすることは何ですか? ※複数選択
- 設問6 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか?
- 設問7 「ヤングケアラー」の子どもは家庭にいますか?
- 設問8 充実させてほしい相談窓口はどこですか? ※複数選択

(4) アンケート結果について →結果は別添参照

(5) 課題と取組みの方向性

《設問4・5 関係》

- 約7割の家庭で困りごとを抱えており、そのほとんどの家庭は多面的に複数の困りごとを抱えている。
- 希望する支援の内容も経済的な補助のほかに、学習支援や相談先の確保を求める家庭がある。困りごとを相談できる窓口を周知し、重層的な相談が受けられる体制を構築する必要がある。
- 困りごと相談窓口について周知の方法を検討する必要がある。

《設問8 関係》

- 相談窓口として、学校の他にもSNSによる相談窓口や休日・夜間相談窓口など、保護者のライフサイクルに対応できる相談窓口が求められているため、これらに対応する相談窓口について検討する必要がある。

4 今後の具体的取組みについて

①関係職員へのアンケート結果周知と協議

今回のアンケート結果を関係機関の職員、教職員まで周知するとともに、この結果について協議の場を持つことを庁内関係各課・校長会・教頭会に提案する。

特に学校においては、「授業についていけない」「いつもおなかがすいている」など自分からは発信しなくても困りごとを抱える子どもが潜在している可能性を認識し、各学校の取組みの方向性について検討してもらうよう提案し、行政からも協議の場に参加する。

②相談を受ける側のスキルアップ

子どもが安心して相談するために相談を受ける相談者の対応スキルの向上と相談時のルールの徹底が必要となっている。相談対応スキルアップのために、学校・関係機関職員の日頃の相談を職員同士で検討したり、カウンセリング研修や相談面接研修等の導入を検討することを提案する。

③相談窓口の周知とSOSの出し方を支援

既存の困りごと相談窓口の周知の方法を福祉課・学校・教育委員会等関係機関と再検討し、周知徹底を図るとともに、新たな相談窓口の開設の可能性について検討する。

相談窓口があっても相談できない子どもたちに、SOSの出し方に関する支援について町と養護教諭の連絡会等において相談する。ヤングケアラーが潜在していることを周知し、子どものサインを見逃さないよう相談支援の事例等を提供し、自覚していない子どもを必要な相談支援につなげる取組みを行う。

④学校・行政による相談機関の連携

子ども・保護者の相談を適切な支援につなげられるよう、福祉課・学校・子ども未来課等関係機関が相談支援の連携を強化する。日々の相談・連絡において、小・中学校へ足を運び、顔の見える連携体制を構築する。

⑤地域との連携と役割分担の仕組み

相談支援の体制を広げるため、地域で子どもの相談対応している人や団体と連携し、子どもや保護者の相談が受けられる機関を周知するとともに、関係機関の役割分担と仕組みづくりを協議する。

⑥関係機関による取組みの評価

困りごとをキャッチするための上記5つの取組みの状況について、子ども未来課・教育委員会・福祉課・企画振興課等にて協議の場を継続的に持つ。